

会 議 録

| | |
|--------|---|
| 会議の名称 | 平成27年度 第2回茨木市産業振興アクションプラン推進委員会 |
| 開催日時 | 平成27年 5月 14日 (木) (午前)・午後) 10 時 開会 (午前)・午後) 11 時 45 分 閉会 |
| 開催場所 | 茨木市役所 本館3階 第4会議室 |
| 議 長 | 中森 孝文 氏 (龍谷大学 政策学部 教授) |
| 出 席 者 | 中森孝文氏 (龍谷大学 政策学部)、野口義文氏(立命館大学 研究部・産学官 連携戦略本部)、近藤正典氏 (中小企業診断士)、小林豊和氏 (茨木商工会議所) 高石秀之氏 (工業事業者)、前田幸子氏 (商業事業者)、西村庄司氏 (農業事業者) 大川智恵子氏 (公募市民) (8人) |
| 欠 席 者 | 矢永住夫氏 (北おおさか信用金庫)、山田理香氏 (公募市民) (2人) |
| 事務局職員 | 徳永商工労政課長、吉田商工労政課課長代理、 河原商工労政課企業支援係長、 山下農林課推進係長 武部商工労政課職員 (5人) |
| 議題(案件) | (1)産業振興アクションプラン改定における重点テーマについて (2)産業振興アクションプラン改定に伴うアンケート調査について |
| 配布資料 | ・資料1 産業振興アクションプラン改定における重点テーマについて ・資料2 産業振興アクションプラン改定に伴うアンケート調査について ・参考 産業振興ビジョン策定時のアンケート内容 |

議事の経過

1 開会

委員長：（開会のあいさつ）

2 産業振興アクションプラン改定における重点テーマについて

事務局：（資料1説明）

<質疑・意見等>

A委員：資料にある「産業」は、商業・農業とも含むと解してよいですか。

事務局：結構です。

B委員：重点テーマとして2つ挙げられていますが、前回のキーワードと照らし合わせると、「茨木らしさの特徴の発揮」という点も必要だと思います。

また「連携の促進・活用」の部分は、「産学官連携」という言葉もあるように、「官」つまり行政の役割も重要だと思います。

阪急(茨木市駅)とJR(茨木駅)の間(近辺)に、多くの商業施設や行政機関、大学など様々な機能がコンパクトにまとまっているのは、茨木市の特徴の1つだと思いますので、鳥瞰的な視点を取り入れることも必要かもしれません。

また、重点テーマとするかどうかは別にして、障害者や高齢者なども含め、ダイバーシティ環境に着目することも必要ではないでしょうか。

C委員：「茨木らしさ」に関連して、市の南部・北部に残る農地も市の特徴だと思います。

新規就農者の方もいらっしゃいますが、売り先に困っているという話をよく聞きます。例えば、市内産の農産物を市内の小売店で優先的に売ったりできないのでしょうか。または、そこに市民としてお手伝いができないかと思います。

D委員：農業について、市がどうしていきたいかが知りたいです。

市の南北に農地が残っているといても、南部では商業施設を含めた都市計画、北部では彩都の開発等が進んでいます。そういったまちづくりの取組みと産業(農業)振興の取組みが、バランスを保たないと上手く進みません。

E委員：農産物については一定の生産量を維持する必要があるのですが、産業として成立するかは別の問題になりますが、近郊で新鮮な野菜が採れるということ、まちの魅力として発信できればと思います。

現在、農業者の方々と一緒に市内産の農産物を使ったお弁当販売の企画を始めたところですが、まだ企画の段階ですが、こういった取組みが継続して定着していけば「茨木らしさ」「まちの魅力」につながるのではないのでしょうか。

委員長：「こんな近郊で新鮮な野菜が採れる」ということを知らない市民の方も多し、知れば新たな事業のきっかけになるかもしれない、という意見でした。情報を発信していくことが重要だと思います。

事務局：現在、市内産の農産物直売所を市の中心部に開設する計画がありますが、供給量が安定しないことから常設は難しいという意見があり、出店者の調整をしている状況です。

委員長：「商品の出店状況」が市民の方にも判るよう、情報の発信方法を工夫することも有効だと思います。

G委員：茨木の産業の特徴として、商業・サービス業が非常に多く、約80%を占めています。

その一方で、ベッドタウンでもあります。また、郊外に住んでいても高齢になって買い物等が不便になり、市の中心部へ転居するケースもよく見られます。

委員長：茨木市の産業の特徴、昼夜の人口構成の違いなどを活かした提案ができないかという意見でした。

B委員：各取組の説明やプランの中に、キャッチフレーズを使うのは有効だと思います。

F委員：最終的な帰着点として、「I Love いばらき」というフレーズはいいと思います。

事務局：今年度、アクションプラン全体を見直し、改定していく中で、ワークショップを設置してより深く検討していきたいテーマとして、この2点を提示しました。

「茨木らしさ」や「茨木ブランド」については、もちろんアクションプランの中では取り組む内容としますが、ワークショップでの検討テーマとしては、資料に挙げている2つということでも良いでしょうか

委員（全員）：良いと思います。

委員長：資料にある2つを重点的な検討テーマとしつつ、横断的なテーマとして「茨木らしさ」や「I Love いばらき」などを掲げてはどうでしょうか。

事務局：了解しました。

G委員：現状のアクションプランは施策をたくさん掲げてありますが、多すぎて、成果がわかりにくいという印象があります。

A委員：重点テーマの1つに挙がっている「人材の育成」に関連して、“創業”だけでなく、「茨木で働くこと」がプラスに感じられるようになることも重要だと思います。

ものづくり企業で言えば、立派な機械を導入すれば良いというわけではなく、働いている人のモチベーションが非常に大切です。

“やりがい”や“働きやすさ”といった付加価値によって、茨木市で働くことがプラスに感じられると、若い人の入社も進むという好循環が生まれ、それが進むと茨木市全体の風土もかわってくるのではないのでしょうか。

3 産業振興アクションプラン改定に伴うアンケート調査について

事務局：（資料2 説明）

<質疑・意見等>

B委員：対象として「大学」がありますが、大学以外の教育機関（小中高校の教員など）まで広げることも有効だと思います。

G委員：対象に「大学」とは別に「学生」が必要ではないでしょうか。

事業者や市民が、「何かしたい」「何かに困っている」と思っている「何か」を拾えるような調査ができれば良いと思います。

A委員：アンケートは手間がかかるので、答えやすいかたちにできれば良いと思います。

C委員：キャッチフレーズを用いて、“めざす姿”や“やりたいこと”を明らかにした上で、答える人のそれぞれの立場から何ができるか、を問う形式はどうでしょうか。

E委員：アンケートは、結果をどう活かすか、どうまとめるかが重要です。

委員長：割合を見るだけでなく、項目間の関係性を見ることが必要です。

D委員：事業者に知られていない制度もあるので、アンケートを利用して制度のPRができれば良いのでは。（例：〇〇制度についてのアンケート）

F委員：「なぜ茨木市に住んでいるのか」を聞くことができれば面白いのではないのでしょうか。

B委員：回収率を上げるための仕掛けも必要かもしれません。

また、記述式が多いのは良くないと思いますが、個人の意志を聞き出すような項目も必要になるでしょう。

委員長：○×方式や5段階選択ばかりだと、こちらが想定している範囲内ではか答えは出てきません。自由意見の記述も必要でしょう。ただし、自由記述にすれば回収率は落ちます。“回収率” “対象者” “設問の設定” など、いくつか意見が出ましたので、参考に調査を進めてください。

4 その他

事務局：産学連携スタートアップ支援事業補助金の申請について

3月2日～4月24日まで申請を受付け、7件の申請があった。

5月14日（木）午後1時から審査部会を開催

それでは、以上をもちまして委員会を閉会いたします。